

⑥ 富山東部

図 II-61 学級数・児童生徒数

小学校名 (8校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数												
東部	3	99	2	65	3	75	3	80	2	69	3	87	16	475
新庄	3	89	3	101	4	128	3	86	3	92	3	106	19	602
新庄北	3	86	3	95	3	92	3	98	3	85	3	101	18	557
藤ノ木	5	178	6	191	5	171	5	185	5	176	5	175	31	1076
広田	2	50	2	47	2	56	2	49	2	51	2	44	12	297
山室	3	87	3	98	3	97	3	74	3	93	3	83	18	532
山室中部	3	88	3	91	3	92	3	89	3	82	3	101	18	543
太田	1	36	1	28	1	32	1	34	1	34	1	34	6	198

※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。

中学校名 (4校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
東部	3	103	3	109	3	85	9	297
新庄	6	232	6	228	5	198	17	658
山室	6	187	6	203	5	196	17	586
藤ノ木	5	167	4	144	4	159	13	470

※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。

各学校の規模	
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:#90EE90; border:1px solid black;"></span>	：大規模校
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:#ADD8E6; border:1px solid black;"></span>	：適正規模校
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:#FFB6C1; border:1px solid black;"></span>	：小規模校

出典：「富山市の教育」（富山市教育委員会、令和3年9月）

図 II-62 小学校児童数推移



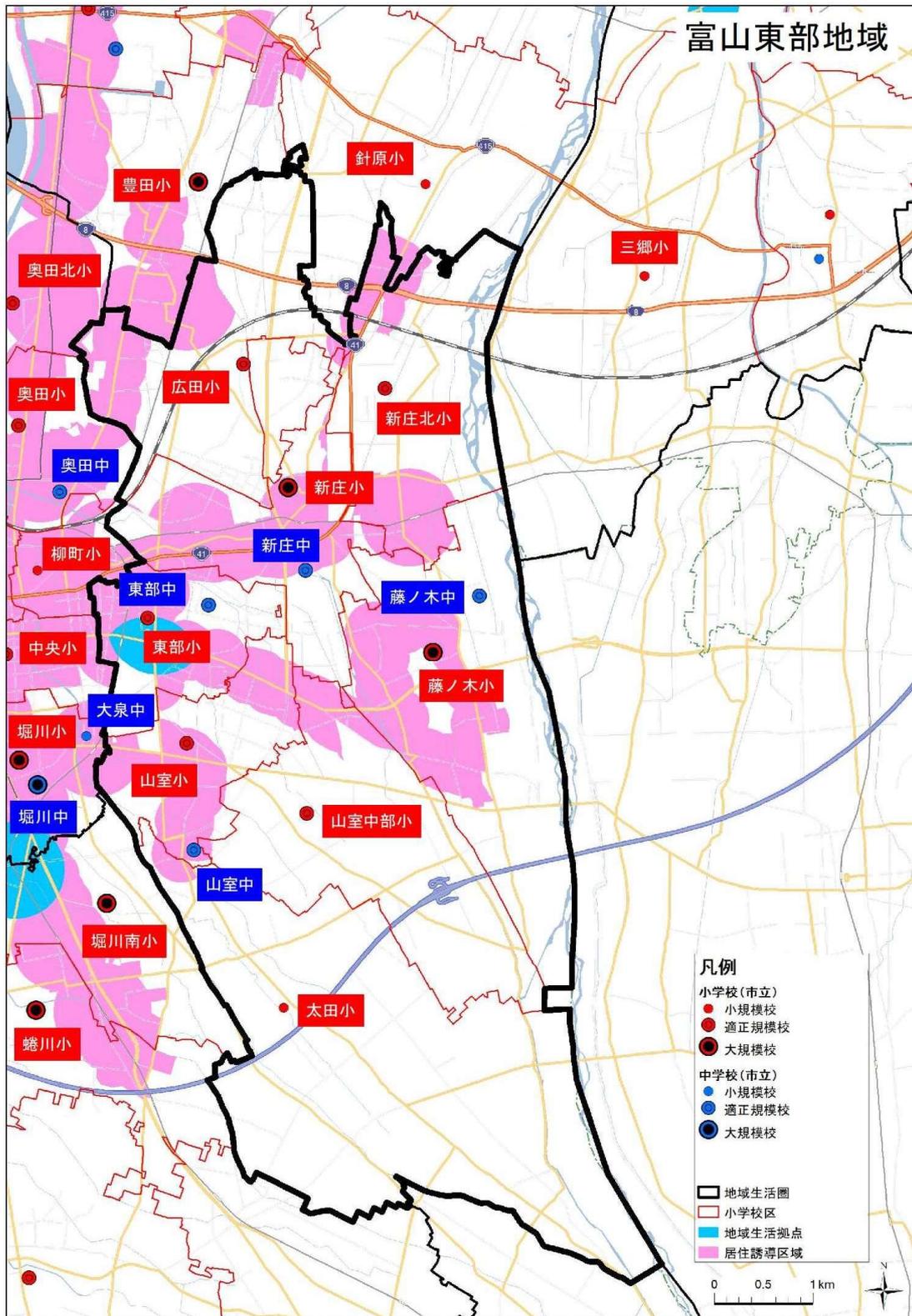
出典：昭和55年度～平成12年度：各学校沿革史（富山市）、平成17年度～令和2年度：「富山市の教育」（富山市教育委員会、平成17年9月～令和2年9月）、令和7年度～令和22年度：令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

図 II-63 中学校生徒数推移



出典：昭和55年度～平成12年度：各学校沿革史（富山市）、平成17年度～令和2年度：「富山市の教育」（富山市教育委員会、平成17年9月～令和2年9月）、令和7年度～令和22年度：令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

図 II-64 学校位置図



※学校規模は令和3年5月1日時点

## 再編する学校の姿

再編する学校の姿

再編の組み合わせ

再編対象校

- 太田小学校〔山室中〕  
児童生徒数：198人  
学級数：6学級(小規模校(全学年が単学級))



再編対象校と組み合わせる学校

- 山室中部小学校〔山室中〕  
児童生徒数：543人  
学級数：18学級(適正規模校)

再編先学校

現 山室中部小学校〔山室中〕

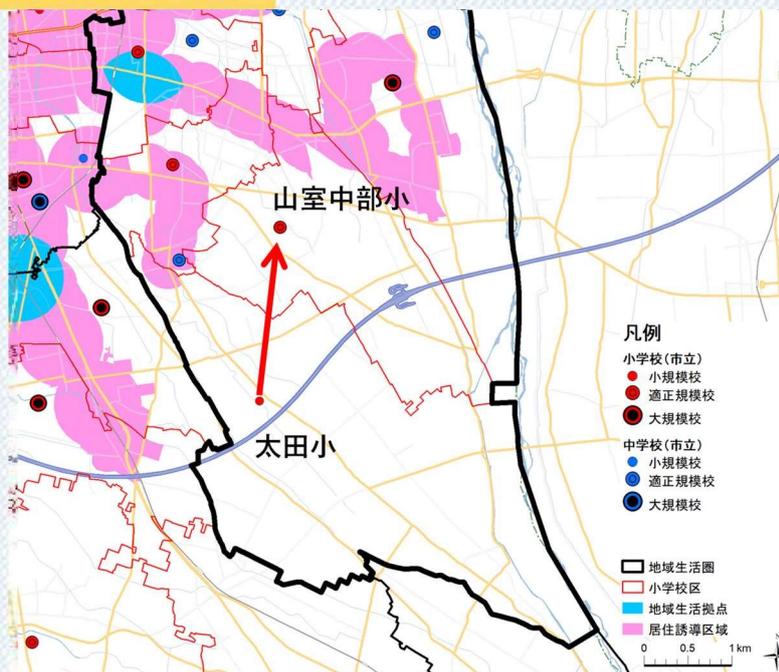
※〔 〕内は進学先中学校

※( )内は学校規模

※再編の組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4(1)、(3)及び(4)に基づく

※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数（「富山市の教育」）

### 該当する地域生活圏及び小学校区



※学校規模はR3.5.1時点

本計画	No.11
再編原案	富山東部-1

# 再編後の概況

## 再編後の児童生徒数の推移



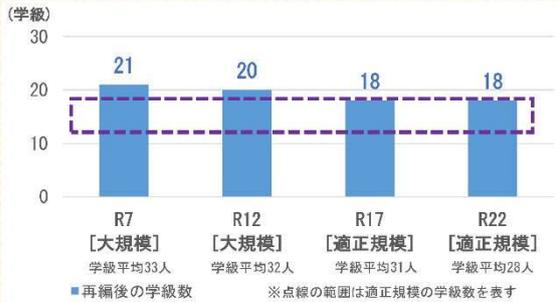
※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数  
 ※赤字は児童生徒数の合計  
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数  
 ※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

## 再編後の通学距離



※現在通学している児童生徒について住民基本台帳（令和3年8月時点）に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

## 再編後の学校規模（学級数）



※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出  
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

適正規模：学級数が12学級以上18学級以下  
 大規模：学級数が19学級以上  
 小規模：学級数が11学級以下

## 再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を下回っている。  
 不足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を上回っている。

※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数  
 ※コーホート変化率法に基づく推計生徒数により学級数を算出

## 再編先学校の施設健全度

	大規模改造済	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
校舎1 (建築年数45年)	-	C	C	C	C	C
校舎2 (建築年数17年)	-	A	B	A	A	A
体育館 (建築年数10年)	-	A	A	A	A	A

A：概ね良好  
 B：部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）  
 C：広範囲に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）  
 D：早急に対応する必要がある（安全上、機能上、問題あり）  
 ※富山市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

## 再編先学校の周辺地域状況



## 再編先学校の指定避難所区分

**第1次避難所**  
 （洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所）  
 ※富山市避難所一覧（令和3年5月24日更新）

## コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7、12年は大規模校となるが、その後令和17、22年は適正規模校となる。
- 【必要教室数】教室数は充足している。
- 【施設健全度】校舎の一部で老朽化が進行している。
- 【周辺状況】地域生活拠点内及び居住誘導区域（立地適正化計画）外に位置する。